

第4回塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時	令和2年8月31日(水) 18:30~20:30
場 所	塩竈市魚市場中央棟2階 大会議室
出席委員	柳井会長、草間委員、佐々木委員、渡辺委員、丹野委員、下館委員、土井(儀)委員、田中(京)委員、中村委員、櫻井委員、今野委員、佐藤(英)委員、江湖委員、土井(萬)委員、大山委員、佐藤(浩)委員、太田委員、阿部委員 以上19名 欠席委員6名
塩 竈 市	副市長、教育長、市民総務部長、健康福祉部長、産業設部長、建設部長、教育部長、市立病院事務部長、水道部長、政策調整監、危機監理監、公民共創推進専門監、財政課長、行政改革係長 (事務局)市民総務部政策課
委託コンサルタント	(株)国際開発コンサルタンツ
司 会	政策調整監

1. 開会

2. 会長挨拶

本日のポイントは、一つは計画の考え方で、地域づくりのスイッチがどこにあるかを見つけ、いくつかのスイッチを押すと、地域間で連続的にダイナミックに変わっていくようなコツを見据えて、その考え方をブラッシュアップしていくことである。

もう一つは、計画自体の構造をどういう仕組みで、どのように効果をもたせて進めていくかを見ることである。

地域づくりのスイッチに対する分かりやすい話をすると、実は日本の戦後に例がある。有沢広巳さんなど経済学者たちが中心となり、一番効果的な産業から集中的に投資するという「傾斜生産方式」として製鉄業に力を入れた。その後、機械系などの関連産業が展開し、戦後日本の経済発展の礎となった。

塩竈にもそういうスイッチがきっとある。例えば、食だ。ミシュランガイドブックに掲載された塩竈市の店は17店舗である。仙台の130店舗には及ばないが、飲食店の構成比でも人口比でも、仙台よりも塩竈の方がずっと数値が高く、塩竈が美食のまちであると言う事ができる。そこから先は皆さんで考えてほしい。そのスイッチがうまく入っていくと、教育など他の面でも影響が出てくるはずだ。地域づくりのスイッチを念頭に入れながら、今日は皆さんと議論したい。

3. 議事概要

(1) 第6次長期総合計画について

①構成及び期間について

事務局から資料1、4に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(会長) 計画の構造は、現計画と同様の三層構成とするという事務局案に対して、意見などあれば今出していただきたい。特に、無ければ次に進ませていただく。

続いて、スケジュールだが、事務局は、事務作業量が増えるけれども、市長さんの任期等にも柔軟にフィットするというので、基本構想10年、基本計画は、前期5年、後期5年とする「案2」を比較3案の中で提案している。よろしいですか。特に、無ければお認めいただいたということで、次に進めさせていただきます。

②②基本構想骨子(案)について

事務局から資料2について説明後、意見交換及び質疑応答

(会長) 資料2のP5の「まちづくりの方向性」の一言一句は、資料1のピラミッドの一番上のオレンジ色の部分の「基本構想」に該当する。その後、基本計画という形で分解して、色んな実施計画に移っていく。だから、大元のところをきちんと押さえて、考えているところを盛り込んでおかないといけない。この一番の部分に漏れや訂正すべき点がないか、皆さんにチェックしていただきたい。この計画について、1人1分半で、お話いただきたい。話す内容がなければ、無理に喋らなくて結構なので、メリハリのある形で進めていきたい。

(委員) 第5次の長期総合計画の審議会の委員もしていた。当時は東日本大震災以前だったこともあり、災害とか防災に関する意見を言っておけばよかったと思う。今回の資料でも防災・減災についての文言が無かったので、是非協議してほしい。

(委員) 私は教育に関して全ての基盤は家庭にあると思っている。学校などの教育にお願いするばかりではなく、保護者の意識を変えていかなければならないと思う。家庭教育という点でも、何か入れる事が出来ないか。

(委員) 塩竈市の皆さんにちょっとお礼が言いたい。3月2日に幼稚園が臨時休園になり、コロナ禍で現場も困惑している中で、最初に塩竈市からマスクが3000枚くらい届きすごく元気をもらった。今回は観光業の方、外食産業の方、すごく大変な思いをされたので、このことが計画案に盛り込まれると良いのではないかな。

(会長) 今回のコロナ禍に限らず、パンデミックは、これからどんどん来ると言われているので、それに備えるというのは確かに必要かもしれない。

(委員) 資料の一番初めにSDGsの他に、スマートシティやsociety5.0、さらにはAIといった新しい考え方が表現されている。しかし、この構想の8項目の中に新しい考え方が入っているかどうかということがよく分からなかった。具体的に、どこに組み込まれているか、確認をしたい。

(委員) このピラミッドの図がなかなか理解できなかったが、先ほどの会長の説明で少し理解できた。まちづくりの方向性の 8 つの部分にある程度ワークショップの意見が反映されて良いと思ったが、塩竈市の子供達が遊ぶ場所、芝生や公園が、必要だと思っているが、どの部分に入るのか。青年部の活動を通じて塩竈に大学があったらと思う機会がとても多い。大学や企業との交流など、大学の方々とコミュニティをつくるのはすごく良いので、「協働」の部分に入っているのは良かった。しかし、外国人労働者は、これから絶対必要になってくるが、どの部分に入るのか。それと、若者の 10 代・20 代について触れていないのが気になる。また、他自治体にはない、港町としての塩竈らしさは「みやぎの台所・しおがま」を謳い、門前町、ウォーターフロント千賀の浦湾だったりするが、浦戸こそ塩竈の強みなので、その浦戸が 8 項目に反映されていて素晴らしい。

(会長) 外国人については、高校生も、もっと交流の機会を作ってほしいと言っている。

(委員) 分野ごとに細かい説明がされているが、これがどう実施計画に結び付くのか漠然としている状況なので、それが分かってから意見を言えればと思っている。

(会長) これの一番上のオレンジ色の基本構想のところは、市長や副市長が皆さんの前で語るレベルで、その次のグリーンの基本計画になると、局長、部長が語って、実施計画になると課長が喋るような、そんなイメージである。

(委員) 人口が減っていくという中で、移住がポイントだと思っている。その部分について具体的などころが何となく見えてこなかった。いかに人を呼び込んで、住んでもらうかという点をご説明いただきたい。

(委員) 塩竈は、様々な経験等、学べる分野があると思う。高等教育を塩竈で受けたかったというのが実感としてあった。塩竈の歴史や食、企業経営等、様々な分野を教育の現場として生かして利用できるようにしていただけるとよい。

(委員) 塩竈にあるものを活かして産業をもっと進めていきたいということだが、IT は割りと場所を問わずにできる職業であるので、塩竈で新しい一大産業が育ってくれたらと考えている。そういう新しいものを起こすことについては、どのようにお考えか。

(会長) 実は、若手職員の中でも、古民家などを使って「IT 産業集落」を作りたいという意見があった。

(委員) 芸術文化協会の関係者が先生として学校などによく教えに行くが、子ども達は学校の勉強が忙しくて、なかなか長くは続かないらしい。80 代とか 90 代の先生方が一生懸命なさって生きいきとして活動していて、素晴らしいなと思っている。子供達も、そういう何か生きがいを持って、芸術・文化に携われるようになってほしい。あと、学校の先生方の色んな負担を軽減するために、学校スポーツを地域に返すといったことが新聞に載っていたが、市の方ではこうしたスポーツを今後、どういう風になさっていくのか。

(委員) 資料 2 の 1 ページのアンケートの結果が気になった。他の調査で宮城県に長く住

みたいと思う理由というのが塩竈で実施したアンケートの内容とかなり似ていると思った。塩竈も人口減少を抑えて、あるいは他の自治体から塩竈に移り住む人を増やしたいと思うが、若い人にとっては、娯楽・遊戯施設が少ない、働く場所が少ないというのはやっぱり寂しい。これからも、そういうところを増やしていけるようであれば、人口減少を抑えられるのではないか。

(会長) 買い物・レジャー・娯楽、そしてハイセンスなショップということだ。

(委員) 高齢化率が年々上がってきているので、高齢化率を低下させ、高齢者を支える若い人を本当に増やすために、「移住」という分野を入れていただきたい。

(委員) アンケート調査の中に、「歴史建造物・景観等」というのがあって、そういう意識が高いのがわかる。塩竈は木造の近代建築が結構あり、建築士の業界でも非常に注目されている。実際、昨年、建築士会の東北女性会で「塩竈の建造物を見て回る会」を開催している。このように東北各県から来た人に、塩竈には歴史的な建造物がいっぱいあると知っていただけなのではないか。それから、浦戸は、風光明媚な島々、かつては浅海漁業を生業としていた島々がある。まさに浦戸は塩竈の宝だと思っている。そんな中で、ステイ・ステーションという文言があるが、ご存知の方はそういらっしやらないのではないか。塩竈のホームページでも掲げている以上、ここでもステイ・ステーションのことを取り上げていただけたらと思う。

(委員) 資料 1、会長の構想から計画についての説明で大体流れは分かった。それから、資料 2 で、コロナ前に作ったアンケート結果を出すと物凄い影響があると思う。現在、色々なものがコロナで止まっている状況なので、この資料の扱いをちょっと工夫された方がいい。

(委員) 「産業」について、塩竈は港町であると書かれているが、塩竈の港町としての魅力は急速に失われ、漁港としてのウェイトもどんどん下がっている。しかし、港に関わる関連産業は結構あるので、それをもっと生かしつつ、港町塩竈の先を見据えてブラッシュアップをしてほしい。「交流」について、塩竈はウォーターフロントと言う前にマリナーである。このマリナーを全面的に発信すれば色んな所からかなり人が集まるので、是非強調していただきたい。

(委員) よくまとめていただいたと思う。1 点だけ注文したい。歴史観光のボランティアガイドとしては、とにかく塩竈の持っている歴史というのは、他地域が逆立ちしても真似できない大変な財産だと思っている。ここに豊かな歴史と一括りで書かれているが、さらに強調してほしい。多賀城市では 4 年後の 2024 年に、創建 1300 年で、南門復元等をやっている。私は個人的には、多賀城が出来たのも、塩竈があったからこそだという風に思っている。歴史を活かしたまちづくりというのを、さらに強調していただけたらと思う。

(副会長) 事業構想というのは、人、モノ、金、情報のマネジメント、重要になってくるのがコンセプトの設計である。そういう意味では、皆さん方からそれぞれの分野につい

て的確な意見が出た中で、それらを一言で表していくようになる。資料2のP5右側の都市像の部分がますます重要になってくると感じた。まさにシティセールスだが、塩竈というときに、先ほどの港町という表現が出ていて、ここにも食の都と書いてある。塩竈はこういうところであると、ある程度決まってきた、これから、色んなぶら下がりの計画が出てくると思う。共通したワードが使われてくると、この三角形のピラミッドがじっくりくるのではと感じた。

(副会長) 審議会のメンバーの方々、そして職員の皆さん含めて、塩竈の特色をよく可視化していると思う。他の自治体では、街の顔がないから、なかなかそこまで踏み込めない。塩竈の場合は食などの色んなコンセプトがあって、これが出てきているということで、塩竈の魅力・ポテンシャルになるという印象である。私としては1つは、防災・減災あるいはコロナへの対応が求められている。今日の読売新聞にも紹介されていたが、今後、見えない敵が現れてくる。例えば東京では、温暖化の影響で台風の発生率が1.5倍になっていく。つまり自然災害、感染症、あるいはテロなど、何か不測の事態が起こってくる。この時のキーワードが、レジリエンス、しなやかに対応していくということである。だから、10年後の未来のために、レジリエンスを掴んでいくことが必要だ。もう1つは、笑顔があるところには声がある。子供達は、実は昭和40年代、50年代頃から街で遊ばなくなり、見かけなくなった。子供たちの声は非常に少なくなってきている。その意味で笑い声を、何かキーワードとして入れたい。大体こういう総合計画には「笑顔」という言葉が必ず出てくる。笑顔があるということは、多分声がある。だから、笑い声があるということは、子供達がそこにいて、よりリアルな立体像になってくる。

(会長)：どうも、面白いポイントをご指摘ありがとうございました。今の皆さんの意見を聞いて、もう一度発言したい方はいらっしゃるか。事務局の方からまとめて回答の方をお願いしたい。

(事務局) まず、例えば、スマートシティ、society5.0等々の項目の内容が、この8項目にどのような形で入っているかというご質問があったと思う。こういった内容等については、はっきり言って、この8項目全体に入っている。例えば、最後の浦戸諸島は、これから人々が住まい、集える持続可能な島作り等々だが、当然、このような浦戸の文化と合わせて、こういったsociety5.0の考え方というのは、おそらく入ってくることになる。我々、市役所としても、こういったものにどんどんチャレンジしていきたい。あと遊ぶ場所として公園や芝生等が入るのかということである。これも具体的に部分というよりは、対象が子供なのだとしたら、分野的には「子ども」の部分に入ってくるが、生活、福祉ももちろん入ってくる。こういったように、環境整備の部分については、基本的には全ての項目にまたがってくるものであると捉えている。これは、草間先生の方からあった子供の笑い声の話に通じるが、この最初の分野の「子ども」のところは、我々が項目として想像するに、やはり笑い声というか、子供が元気

に遊ぶ声が、まちのなかの所々で聞こえるようなまちというのをイメージして、この項目を考えていた。ニュアンスの調整はこれからもしていくが、考え方としては、そういったことを踏まえている。あと、外国人労働者が入っていないかどうかということだが、労働者に限らず、この塩竈市としての市民と外国人との関係というのは、切っても切れない時代になってくる。こういった項目については、例えば、「産業」や「交流」、あるいは「文化」等の項目にそれぞれ、含有されるような内容であると捉えている。あと、10代や20代の若者について、触れていないという意見については、若者が例えば、いきいきとするようなまちづくりというニュアンスを、もうちょっと分かりやすいように見直させていただきたいと思う。塩竈高校の生徒さんたちとも話をさせていただいた際の色々なご意見も、この項目の中にニュアンスとしては絶対入れていきたい。移住がポイントになる、人を呼び込むという内容のご質問、移住を入れてほしいとの意見があった。これも修正というか、ニュアンスをきちんと伝えられるように内容を検討してまいりたい。あと、塩竈で新しい産業にチャレンジするITは場所を問わないという話があった。これはまさにsociety5.0をベースとした考えであり、決して東京や仙台に住まなくても仕事ができる環境になるということである。こういったこともきちんと塩竈市として対応していきたいし、この計画の中でも、ニュアンスとして、きちんと取り込んでいきたい。あとは、スポーツについてだが、スポーツを地域に還元するという内容だろうか。

(委員) 先生方の負担を減らすために、地域に任せるといようなことが書いてあった。学校での部活動がスポーツ少年団みたいなものになるのか。スポーツは皆さんに広く行ってほしい。やっぱり、学校ですると、多くの子供たちが参加できると思うが、少年団や会員に入るのは、色々ハードルがある。親御さんたちも、働いていたりすると、なかなか難しい。参加する方々が減ってくるのではないかと思った。市の方では、そうなった場合に、助成等行うのか。そういったところをお聞きしたかった。

(副会長) その問題は、ちょうど今、文科省がこれから答申しようとしているところで、これからの議論になる。

(事務局) アンケートがコロナ前のアンケートで、コロナ後の現在、この計画でいいのか、表現としてはどうなのかというようなご質問があった。おっしゃる通りかと思う。我々としては、コロナに限らず、新たな危機ということで、感染症を位置付けたい。こういった新たな危機に対する対応というのは、この8項目全般にわたって、必要な内容であると捉えているので、このニュアンスというのはきちんと計画の中で捉えていきたい。塩竈を港町のイメージをもっと強くというお話については、港町はまさに塩竈の顔の1つであるので、これも項目の中できちんと伝えるように工夫してまいりたい。あと、併せてウォーターフロントに関してもあったと思うが、同様に捉えていきたい。あと、「文化」の分野での、豊かな歴史を強調してほしいというところは、前段にも歴史的建造物のお話をさせていただいたが、塩竈としては、文化の分野の部分

に関して、もう少し分かりやすいようにニュアンスを調整してまいりたい。最後は、レジリエンスの話と子供の笑い声、子供の笑い声は先ほど申した通りである。我々としても、そういったニュアンスできちっと、この子どもの分野については捉えたいと思っている。併せて、今コロナの話もしたが、まさにレジリエンス、しなやかな強さを備えた塩竈に持って行かなければならない。新たな危機への対応の部分で表現できるように工夫してまいりたい。

(教育長) 中学校の部活動に関してだが、ここで言うと、「文化」の分野の「②生涯スポーツの展開」、あとは③の「芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成」の中に大きく含まれると同時に、上の「子ども」の分野の中で、「地域全体で子育てや教育を支える体制の充実」の中に含まれていくのではないかと。あとは、学校の先生が忙しいから、既に外部指導者が指導するというような形で進んでいる。あと、中学校がそれぞれ子供の数が減ってきて、部活の維持も大変なので、複数の中学校が一緒になって、部活動をしていくという体制も、塩竈だけでなく、色々な地区で起きている。今後のことを考えれば、コンパクトな塩竈の中で、例えば、サッカーやりたい一中、二中、三中の子がどこかに集まってという風な取り組みも考えられる。今後、こうした形も検討されるかともかもしれないが、こうした内容は、「子ども」分野と「文化」分野の中に含まれて、具体策が、今後考えられていくのではないかと考えられる。あと、家庭教育の質問も、「子ども」のところの「切れ目のない支援体制の構築」というところと、②の「子どもを育むための学習環境の充実」の中に、何か家庭教育という文言をうまく含めて、考えていければいいのかなと思う。

(事務局) 少し回答漏れしている部分の補足をさせていただく。まず、産業の分野で先ほど外国人労働者のキーワードをお話いただいた。実は、本市は外国人の人口が増えることで、人口減少の影響が少しでも抑えられている。これは日本全国同様だが、ここでの外国人労働者ということだけではなく、外国人の皆様とどのように共生共存していくかというような、そういった観点が必要なのではないかと受け止めている。それから、質問の中で IT の話で、若い方が満足できる雇用の場の創出の中で、実際には通信が入った ICT と合わせて、IT のある雇用の場というのが、新しい技術として、今回の時代の潮流に含まれている。そういったところも視野に入れた雇用・産業、そして若者の移住というところを繋げていくような話として受け止めている。それから、芸術文化については、特に講師の方がご高齢で継続に繋がらないという話をいただいた。「文化」分野の最後のところに人材育成という表現があるが、後継者をいかに育てていくかという意味合いも含んでいて、教育だけでなく「産業」や「文化」にも関係してくる。労働者に限らず、後継者をいかに大事に育てていくかという人づくりの観点で、捉えていくべきと考えている。最後に、高等教育の話は、かなり専門的なもので、本市の大学の誘致にも関わる話として、ここは新たな課題として事務局でもこれからの検討とさせていただきたい。

(会長) ここは一番大事な憲法にあたる部分の、一番基本的なところの確認になる。ここをきちっとやっておかないと、あとで皆さんが苦労することになる。

(委員) 直接関わることでなくて申し訳ないが、この中に学習環境づくり、環境の充実や教育の質という文言に関係して、先生方の労働環境というのがすごく重要になってくる。今年度、塩竈の市内の小中学校ではクーラーが配置されて、子供達はすごく涼しい環境の中で学んでいるが、実はその一方で、職員室や校長室には、クーラーが設置されていない。先生が熱中症で、救急車で搬送されるということも実際、あった。先生方の労働環境がすごく大事になってくるのではないかと思う。今、教育長も副市長もいらっしゃるので、是非そこのところをお願いしたい。

(教育長) はい、大変貴重なご意見ありがとうございました。私も2年前まで教員をやっていて、散々教育委員会に冷房を入れてくれと言っていた立場である。順次入っていくように計画を立てて、予算化している。まずは、子供の方を優先に工事していったところなので、ご理解をお願いしたい。

(委員) 先ほど外国人労働者のお話があった。塩竈の水産加工は、相当な産業の集積があったが、今や、外国人労働者の方々がいなければ成り立たない。色んな規制があり、どんどん廃業している、かなり危機的な状況である。是非、文書の中でも、この問題、色々皆さんから指摘されているので、事務局でもご認識いただきたい。

(会長) 散居地域の研究、コミュニティをどういう風に地域で結び付けていくのかという研究も始まっている。例えば、南三陸と気仙沼だけでも600人くらいの外国人がいたり、石巻も相当数入っている。塩竈も朝の仙石線下りの第一便は外国人がたくさん乗っている。だんだんと、今後10年間で考えていかななくてはいけないテーマになってくるのではないかと思う。

(副会長) 外国人が一番多い自治体は、関東では群馬県の大泉町で、今20%近く、つまり10人に2人は外国人がいる。外国人が入ってくると、色んな軋轢がある。単純に多文化共生という言葉は、すごくきれいだが、ヨーロッパでは、外国人が入って来て、国内の自国民が労働を取られて、社会不安を生じている。多文化共生を推進する場合、10年後には、外国人労働者の割合が増え、定住人口が増えてくる。その時に、どういう風に社会統合していくかを考える必要がある。

(会長) 江戸時代に、中国人が出島に入ってきて、そこで生まれた子供達は日本にずっと帰化していった。ところがドイツの場合は逆である。全然違ったフェーズに入っていて、ここは慎重に色々コミュニケーションを取りながらやっていかないといけない。今後難しい問題が発生するということはあるかもしれないし、逆に物凄く地域にバイタリティを与えてくれることもあるので、そこのチャンスとリスクをちゃんと見て、取り組んでいく必要がある。事務局の方には、基本構想の素案を、是非、今の意見を参考にして、さらにブラッシュアップをお願いしたい。

(2) 塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局から資料3について説明後、質疑応答、意見交換

(事務局) 今説明した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、平成26年に国が、「まち・ひと・しごと創生法」という法律を作った。これは、日本全国での人口減少、地方創生に取り組むための計画を各自治体で作るという国からの要請により、塩竈に限らず全国的に、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画を27年度から31年までの5ヵ年間ということで作ったもので、第5次長期総合計画と無関係ではない。第5次長期総合計画の計画期間であったので、長期総合計画の中の、例えば人口減少の克服や、雇用創出等の視点を「まち・ひと・しごと」の方で、より具体的に、こういった事業に取り組もうという計画を作った。今度の第6次長期総合計画では、期間を合わせるために、まち・ひと・しごと創生総合戦略を第6次長期総合計画の中に入れて、一緒の計画になるということである。そのため、この審議会の皆様に、現在のまち・ひと・しごと創生総合戦略の計画で、実際に取り組んだ事業の実績を、只今、説明させていただいた。

(会長) さらにかみ砕いてお話すると、資料3-1、11ページの計画期間(案)のグリーンにあたる部分である。ハード事業以外のソフト事業で、地域ごとに特徴のある事業、際立つ事業にお金が付いてくる。塩竈だと漁業なので、こういったICTの話や、人口減少対策にお金が付くということで、入れ子状態になっている。実施計画にもっと手厚くお金がついてくる。このまち・ひと・しごと創生総合戦略については、第6次長期総合計画と一体的に策定するという事なので、また折に触れて、議論をしていければと思っている。

5. 閉会

(事務局) 今回のご意見は、今回の基本構想の素案の方に是非、反映させたい。次回の審議会は10月を予定している。